

甲南Today

甲友のリレーションで、未来を紡ぐ

2012 Jan NO. 40

<特集5>

「オール甲南の集い2011」をつくった男たち
オトナになつても
甲南ボーリ



天まで響け！ 秋宗 秀俊

准教授

小原 宏貴 氏

和太鼓サークル誕生秘話

理工学部 物理学科

小原流家元

なるほどー甲南アカデミア

KONAN Style

<特集2>

私たちの
身近にあるー「物理学」
今、甲南が
で変わっている

学生たちの被災地ボランティア体験報告

<特集4>
自動車部快進撃！
その陰には、がんに侵されながらも
決してくじけない監督の存在があった

あしなが
おじさんがいる？
走らせる命を！

<特集1>

大好きな六甲山を音楽で満たしたい
そんな思いが人の心をつないでいく

甲南大学に
甲南大学父
母の会 役員座談会

甲南 Today NO.40

2012年1月31日発行 [発行] 甲南学園広報部 TEL 658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL 078-431-4341 (代)



会計学院 1年次
樋口尚子さん

現在は公認会計士の資格取得のため
に勉強中。将来は地域活性化をめざす
企業やNPOなどの団体を経営の面から
もサポートしたり、起業もしてみたい。

「六甲山を活性化させるためには利益を出す」という重要性。
「演奏する機会を貰えて、ありがとうございます」との言葉も。
「休みを返上して協力してくれた六甲ケーブルの社員の方々にも感謝しています。みんなが一緒に六甲山を盛り上げようという気持ちが十分に伝わってきました。このイベントをきっかけに、演奏会は毎年恒例に。新しいキャンドルを使用したワークショップも企画して6月5日六甲山の日に開催しました」。

今後は、地域に根ざした「六甲ネスモーテル」の開発に携わっていくことを語る樋口さん。「自分のアイデアを形にするおもちゃはもちろんですが、地域や人を巻き込んでみんなで楽しむ、自然に人の輪が広がり、新しいつながりもできてくる。それが私のいちばんの喜びです」。今日も樋口さんは神戸の街を笑顔で走り回っていました。



六甲ケーブルカー内で演奏する甲南大学文化会JAZZ研究会のメンバー。

ONLY ONE
個性を力へ
VOL.11

「眞の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、
個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者 平生釣三郎。

そんな平生の想いを込め、
今、甲南学園の光り輝いている学生・生徒をご紹介します。

地域や人のために貢献したい
自然な思いから始まった
「幼いころから六甲山は私の大好きなところ」と笑顔で語る
樋口尚子さん。家族連れで、身近で思い出深い「まだ記憶に残してない」といつ話を聞き、何かお手伝いしたいと思つた」。

きっかけは樋口さんが学部生3年次のとき。六甲ケーブルを運営する六甲摩耶鉄道社長の上田均さんが甲南大学で講義されたことから計画が具体化していく。「六甲山の魅力を広めたい」との思いで上田均さんと樋口さんは意気投合。その後、「地域活性化ハステム論」という講義のなかで、六甲山をテーマにアクションプランを考え出した。いかにお客様を集め、楽しませるか。樋口さんは「アイディアは、やがて神戸東灘マリー・ハワイオ・ン・ズ・クラブ主催の「アイディアコンテスト」で賞を受賞する」とこなた「プランを発表しただけでは、相手は受け入れてくれない。だから実行して「プランのよさを感じてもらおう」と思つたのです。取組はその通り風になりました。大学内や友達

が音楽サークルを立ち上げたり、学生同士の交流イベントを企画するなど、昔からの新しいことを考えて企画する「これが好きでした。イベントを主催するときに不安ではなく、むしろ早く実行してお知らせを軽げやつあげたらいいのか候持ちでござつてました」。

ケーブルカードJAZZライブ？
自由な発想が形になる

「六甲山を活性化させるためには利益を出す」という重要性。
「おもやはケーブルカーの利用客を増やすことで天覧台付近から少しでも活性化させようとしました」。樋口さんのアクションプランは六甲ケーブルカーの車内での演奏会を開くといふものだった。早速、経済学部 杉村芳美教授の紹介で甲南大学文化会JAZZ研究会に演奏の協力を依頼。快く引き受けたかったものの、準備は大変だったとのことで、「ケーブルカー」という限られたスペースの中で思うように演奏ができるのかが心配でした。企業とのやりとりなども大変でしたが、当日は多くのお客様からは「これからも定期的に開催してほしい」と言われ、演奏者からも「演奏する機会を貰えて、ありがとうございます」との言葉も。

「休みを返上して協力してくれた六甲ケーブルの社員の方々にも感謝しています。みんなが一緒に六甲山を盛り上げようという気持ちが十分に伝わってきました」。このイベントをきっかけに、演奏会は毎年恒例に。新しいキャンドルを利用したワークショップも企画して6月5日六甲山の日に開催しました」。



Konan
mobile

インターネットで甲南へ

<http://www.konan-u.ac.jp>

携帯電話で甲南へ



“たまたま”的
原因を探りたい。

宇宙から目の前の石ころまで、すべての物質は原子からできています。その中心にある、とても小さな「原子核」の性質解明に挑む研究を紹介します。

19

秋宗 秀俊
准教授

先生一矢の最前線を教えてください



余命半年と宣告を受けた私に、
奇跡をくれた甲南大学の“仲間”。

持ち前のあきらめない強さとご家族をはじめ甲南大学のOBや同期・現役部員のパワーで、告知期間半年を乗り越えられた、体育会自動車部 山根監督の生き様を紹介します。

15

<特集4> 自動車部快進撃!
その陰には、がんに侵されながらも決してくじけない監督の存在があつた。



05

<特集1> 2010年度の再編によって大きく変わった理工学部から物理学科を紹介します。

むずかしく考えがちな「物理学」。
実は、私たちの身近なところに
関連する興味深い学問です。

宇宙という壮大なスケールのものから、量子という小さな単位のものまで幅広い内容が研究対象となる『物理学』。それぞれの魅力を理工学部物理学科の梶野文義教授と安藤弘明教授に語っていただきました。

04

◎平生日記
旧制甲南中学校の誕生
—平生日記『第三巻』より—

感謝

—そして試練をこえて100周年へ
理事長 吉沢 英成

03

甲南学園90周年記念事業
募金活動終了

被災地では復興が進まぬまま
1年が経とうとしています。今号では、現地ボランティア体験
や学園のチャリティーイベント
を取り上げました。今後も、被
災地への想いを込めて、誌面
を通して復興支援と継続的に
向き合っていきます。



28

高中TOPICS

23

甲南高校ラグビー部、県民体育大会優勝
の“きっかけ”ともいえる出来ごとに迫ります。

It's KONAN Style

21

1世紀以上の歴史を誇る小原流の家元をわずか6歳で継承。伝統文化に新風を吹き込むいけばな界のニユーリーダー。

小原 宏貴 氏
第一線で活躍する卒業生。
小原流家元



天まで響け!

甲南大学和太鼓サークル。
その誕生にはひとつ
ドラマがありました。

KONAN FORUM

29

東日本大震災のチャリティーイベントとして開催した「オール甲南の集い」の実施報告ほか、体育会の輝かしい戦績が盛りだくさん。



広報部が甲南ボーイのイメージに
ぴったりの卒業生を見つけました。

ONLY ONE
—個性をカバー—
裏表紙

自らの独創的な企画力や行動力で、大好きな六甲山を盛り上げる、会計大学院の学生を紹介します。

25

<特集5> みなさんが抱く
甲南ボーイのイメージは?

16



05

<特集1> 2010年度の再編によって大きく変わった理工学部から物理学科を紹介します。

むずかしく考えがちな「物理学」。
実は、私たちの身近なところに
関連する興味深い学問です。

宇宙という壮大なスケールのものから、量子という小さな単位のものまで幅広い内容が研究対象となる『物理学』。それぞれの魅力を理工学部物理学科の梶野文義教授と安藤弘明教授に語っていただきました。

甲南Today

from the editorial staff

No.40
2012
January

今号の見どころ



07

今、甲南が
できることⅡ

それぞれの想いを携え
被災地でボランティア活動を
行った学生4名からの現地報告。

被災地のみなさんが、いま何を必要としているのかは、行ってみないとわからないと考え、行動に移した4名の学生。現地では、想像を超える惨状にショックを受けながらも、人の優しさや、あたたかさにも触れてきたようです。



11

<特集3>
甲南大学に
あしながおじさんがいる!?



12

甲南大学父母の会
役員座談会

甲南大生を陰で支える「甲南大学父母の会」。役員の方々に、学生支援に寄せる思いをお話しいただきました。

感
謝

—そして試練をこえて100周年へ
理事長 吉沢 英成

<特集2> 被災地復興支援に関する特集の
第2回は、ボランティアを体験した
学生による座談会です。

量子は神秘と可能性に満ちている

およそ137億年前に誕生したと言われる宇宙。しかし、いまだ多くの謎に包まれています。この謎を、世界中の研究者が宇宙物理学の視点で解明しようとしています。

私たちの体を、いつも膨大な数の放射線が突き抜けている?と聞いたなら驚かることでしょう。しかしこれは本当です。宇宙空間には「宇宙線」と呼ばれる高いエネルギーの放射線が絶えず飛び交っています。宇宙線は銀河のどこから発生し、あらゆる方向から猛烈なエネルギーをもって地球に衝突してきます。地球は磁場や大気に

スーパーコンピュータで1千万年かかる計算を数十秒で解いてしまう量子コンピュータの出現など、摩証不思議な量子の研究が進めば、社会は飛躍的に変化すると言われています。

通信の速さの 限界に挑む!

光通信やブロードバンド。この言葉を聞いたことがない人はいませんよね。これらはインターネットを中心とした高速の通信手段(通信回線)を表していて、ここ数年の間にその速度は桁違いに速くなりました。私は教授職に就く前、まさにこの桁の違いに挑戦していたのです。光通信で使う波の長さはミクロ

葉を聞いたことがない人はいませんよね。これらはインターネットを中心とした高速の通信手段(通信回線)を表していて、ここ数年の間にその速度は桁違いに速くなりました。私は教授職に就く前、まさにこの

業で研究を始めた1970年、80年代当時は波長0.8ミクロンが光通信に最適と考えられています。しかし、ここで満足していくはた。しかし、ここで満足していくはた。しかしながら、このままでは、研究者としてのプライドが許さない(笑)。光の信号を、さらに速くより遠くまで送るために研究開発プロジェクトに参加し、波長1.3~1.5ミクロンの光を使う、桁違いに高速な光通信の実現に大きく貢献しました。そのような挑戦の突破口を開くきっかけとなつたのが物理学で得られた知識だったのです。

ミクロの世界に 住む量子たち

現代の情報化社会を根底から支える物理学、その物理学には2本の柱があります。有名な理論物理学者



<特集> 理工学部物理学科 再編

学生たちにより良い研究環境を。今回の再編に伴って実験機器なども大幅に拡充されました。

甲南大学理工学部は2010年度に再編され、物理学も大きく変わりました。大きな変化をとげるにあたっての物理学科の思いは、「物理の基礎を理解したうえで、その内容を応用することによって将来社会に貢献できる人材を育成したい」ということ。その思いを実現するために、物理学科が行った取り組みとは?

例えば研究領域。原子核や素粒子といった小さな単位からナノサイエンス・一ト技術や半導体などといった新素材・先端技術、さらには宇宙観測・天文学といった大きな世界までを網羅しています。理系の学問分野では他の私立大学にも多く設置されている「物理学科」。その中で、幅広い研究領域を展開することで、教育の特徴を出しています。

例えば学修サポート体制。学生へ働きかける体制を作るために、33種類もの実験・実習科目を開講。実験設備も充実させて、学生は様々な実験実習を受講することができますが可能となりました。また、学生の自主性を伸ばす体制を作るために設置した、学修支援室(サイエンスサロン)。この支援室によつて、教員と学生の距離が近くなり、学生が教員へ質問などやすい環境づくりができました。

このような大きな変化を遂げた物理学科から、今は「自然科学コース」と「理工学コース」から各1名の教員に代表して、実は私たちの身近にある「物理学」についてお話を聞きました。

量子力学は 古くて新しい

現在も量子の効果は、実は身近に

よく使われています。レーザープリンタ、衛星アンテナ、高性能トランジスタ、携帯電話もそうです。待ち受け時間を持続したり、電波を効率よく発生させたりできるのも量子効果のおかげです。量子と量子を重ね合わせるなど、量子の相互作用について研究を深め、量子を意図的にあやつることができます。量子コンピュータの開発にもつながる

ことです。

無い究極的安全な光通信を実現

できるのです。

い日々進化を続けています。だからこそ、興味の尽きない学問領域なの

です。

</div

災 を 感 じて

東北地方太平洋沖地震
東日本大震災

ボランティア体験報告

井野瀬
いろいろな場所、いろいろな想いで大震災を受け止めたんです

由水
私も、日本で起った災害のなかで、あれほどの惨状を見たことがなかったから本当に衝撃的でした。

永井
僕はちょうど就職試験の面接の最中でした。面接を受けた企業の工場が東北にもあったため、社内が騒然となっているのを目の当たりにしました。それほど大変なことが起きたのだと実感しました。

井野瀬
被災地でボランティア活動を行ってきたみなさん。今日はその貴重な経験談を心待ちにしてきました。まずはあらためて東日本大震災発生時の気持ちを聞かせてもらえますか?

野村
外出先から戻つてくると、顔色を変えた母が「東日本が大変なことになっている!」と教えてくれました。「どうしたんだろう?」と思いました。テレビの前に行つてみると、そこには信じられない光景が映っていました。阪神・淡路大震災のときは2歳、その記憶がありませんでしたから、大きな衝撃を受けました。同時に、「この映像の場所にいる人たちとは今どうしているのだろう…」と心配になりました。

由水
私も、日本で起つた災害のなかで、あれほどの惨状を見たことがなかったから本当に衝撃的でした。

永井
僕は、これまでに西アフリカのセネガル共和国でボランティア活動を何度か経験したことがあります。そこで本音で、本当に必要な支援をしたいと感じようになつたのです。

井野瀬
被災地でボランティア活動を行つてきたみなさん。今日はその貴重な経験談を心待ちにしてきました。まずはあらためて東日本大震災発生時の気持ちを聞かせてもらえますか?

野村
話は少し異なるかもしれません、甲南大学を受験するとき、友人や家族など周囲の人たちがすごく励ました。そのおかげで希望を叶えることができたと同時に、"人からもらう力の大きさ"も知つたのです。だから、いつかは誰かを励まして役に立ちたいという気持ちがずっとあつたので、発生後間もなく行動に移すことができました。

由水
被災地の状況を知り、何ができるか考えたいと思ったからです。両親も、「テレビを観ていいだけではわからないことが被災地にはきっとあるよ」と言って、背中を押してくれました。

永井
僕も、報道されていることに疑問があつたし、できるだけ早く現地へ行つてみたいと思いました。以前から困つている人の力になりたいという気持ちを強く持つていました。

井野瀬
素晴らしいご両親ですね!でも、被災地へ行きたいと思っていても、なかなか行動に移せない学生が多いと思いますが、それがみんなにはどうしてできたのでしょうか?

由水
授業期間中に被災地へ行くことは難しいと考えていたので、夏休みに絶対行こうと思っていたのです

永井
僕は、これまでに西アフリカのセネガル共和国でボランティア活動を何度か経験したことがあります。そこで本音で、本当に必要な支援をしたいと感じようになつたのです。

井野瀬
いろいろな場所、いろいろな想いで大震災を受け止めたんです

ね。そして一様に、大きなショックを受けた…。そんな中から、なぜみなさんは被災地へ行こうと思ったのでしょうか?

野村
話は少し異なるかもしれません、甲南大学を受験するとき、友人や家族など周囲の人たちがすごく励ました。そのおかげで希望を叶えることができたと同時に、"人からもらう力の大きさ"も知つたのです。だから、いつかは誰かを励まして役に立ちたいという気持ちがずっとあつたので、発生後間もなく行動に移すことができました。

由水
被災地の状況を知り、何ができるか考えたいと思ったからです。両親も、「テレビを観ていいだけではわからないことが被災地にはきっとあるよ」と言って、背中を押してくれました。

永井
僕も、報道されていることに疑問があつたし、できるだけ早く現地へ行つてみたいと思いました。以前から困つている人の力になりたいという気持ちを強く持つていました。

井野瀬
素晴らしいご両親ですね!でも、被災地へ行きたいと思っていても、なかなか行動に移せない学生が多いと思いますが、それがみんなにはどうしてできたのでしょうか?

由水
授業期間中に被災地へ行くことは難しいと考えていたので、夏休みに絶対行こうと思っていたのです

永井
僕は、これまでに西アフリカのセネガル共和国でボランティア活動を何度か経験したことがあります。そこで本音で、本当に必要な支援をしたいと感じようになつたのです。

井野瀬
いろいろな場所、いろいろな想いで大震災を受け止めたんです

行きたいといふ
思いを、行動に
変えることが大切。



今、甲南ができることⅢ

東日本大震災の発生から約1年が経とうとしています。1995年1月の阪神・淡路大震災で被災した本学園は、当時全国から温かい支援をいただきました。

東日本大震災の復興支援を長い目で考え、その記憶を風化させないように、継続的に甲南Todayで取り上げていきたいと考えています。前号の特集では、震災直後、いち早く募金活動を行った甲南大生・甲南高生の生徒たちの取り組みとその想いを紹介しました。

今号では、震災後に被災地に足を運び、ボランティア活動を行った学生たちの体験談を通して、私たちに何ができるのか、何をするべきなのかを、考えたいと思います。



今、甲南が できること II



水所 一方で学生の多くは震災に対する意識が低いとも感じています。ボランティアから帰ってきて、報告会を行つたのですが、甲南大生の参加が少なく残念に思つたもので、意識を持ち続けないと、支援が途絶えてしまつと思います。

永井 これまでには”復旧”だったと思うのですが、これからは”復興”だと思います。自分たちにできることを
探して復興のお手伝いに取り組んでいます。無理をすることなく、しかし長期的に支援活動をしていきたいですね。

なんですね。素晴らしい！甲南としては、みなさんをはじめとした学生の声をきちんと受け止め、甲南大学地域連携センターを中心に、「ボランティアに行つてらっしゃい」と背中をポンと押してあげられるような体制づくりを、もつともつと進めていくべきだと思います。そして今後も被

甲南大学地域連携センター

愛称：KOREC
〈甲南大学「Konan University」における地域連携「Regional Liaison」の拠点「Center」〉

地域と大学との連携を推進する新たな拠点として、それまで約6年間、大学の地域連携の窓口を担ってきたコミュニティ・デザイン・センター(CDC)の役割を発展的に受け継ぎ、2011年4月に設置されました。開設時期が東日本大震災発生後間もなくということもあり、現在は活動の重点を被災地支援に置いています。具体的には、学生ボランティアの派遣や教育現場への支援窓口としての機能や、地元岡本商店街と連携しながら長期的な被災地支援計画にも取り組んでいます。また、甲南大学内で「私たちにできること—ボランティアとは何か—」と冠したボランティア教育連続講座(全4回)を開催するなど、被災地支援に精力的に取り組んでいます。

**被災地を
思い続けることが大切。**

由水　被災された方々の気持ちは、実際接してみて知る部分が多くたんですね。より多くの甲南大生にも被災地支援に行ってほしいので、この体験を伝えていきたいです。私も影響されて、母と姉も個人でボランティア活動を行なっています。

野村 メディアの報道も少しづつ減り、世間の関心も薄らいできている今だからこそ、私たちがもつといろんな方法で、直接、情報を伝え続けることが大事なのではないでしょうか。

井野瀬 その通りですね。そのためには、大学としては、みなさんによつて学生を召募する機会を多く設け

いろいろあって難しいとは思います
が、震災前の生活に戻るための自立
に手を貸すことが必要だと思いま
す。とはいってもまだ被災地ではボ
ランティアの手は足りないとも聞きました。
今後もどのような形で被災地
に行つたらいいのか、僕と永井くん
は甲南高校の卒業生でもあるので、

継続的に
「つながり」をもち、
復興を支えていきたい。

野村 岡本商店街が被災地の方へ励ましのお手紙を書く活動をされていましたが、現在もそのお手伝いをしています。地域の方と一緒にになって今後もずっと被災地を見守り続けたい

ボランティアを体験した学生は、被災された方々に关心を持ち、支援への意識を高めることの重要性を切実に教えてくれるものでした。対談内の井野瀬教授の話にもありましたように、甲南は被災地が真の復興たすまで、“絆”を胸に見守り続いと考えています。

なつてもらつたためにこちらが働きかけないといけないのに、逆ですよね。 井野瀬 ボランティアとは、「してあげる」といった一方通行のものではなく、する方・受け取る方の双方向の活動であることを、みなさんも実感されたようですね。今あらためて思うことはありますか?

とは思つていませんでした。参加してくださった岡本商店街や地域の方が「学生さんは来ないの?」と聞かれで、少し恥ずかしい思いをしました。
井野瀬 本学は阪神・淡路大震災のとき、全国からたくさんの助けや励ましをいただいたのに、今回の震災で被災したみなさんに心を寄せられ

いきたいです。僕はもうすぐ社会人になるので、今後は十分な時間が取れなくなるかもしれませんのが、今後は後輩たちが引き継ぎ、被災地支援に取り組んでくれればうれしいですね。

卷之三



学部4年次
治会中央委員会委員長(第40期)
新昌晃さん



学部4年次
治会中央委員会副委員長(第40期)
井道明 さん



メント創造学部1年次 水 伊織里 さん



メント創造学部1年次 村 明日香 さん

ラントイア志願者を乗せたバスを出すということを大学からのお知らせで知り、乗せていただくことにしたんです。

井野瀬 私も授業のことが気がかりで、したが、由水さんが岡本商店街からバスのことを教えてくれたので、参加する決意をしました。行動するためにはきっかけが大事だと思います。

由水さん、野村さんが参加されたボランティアバスは、甲南大学地域連携センター（10頁コラム参照）から告知したものですね。地域連携センターは、震災発生と開設時期が近かつたため、第一号となる取り組みが、東日本大震災の復興支援になつたわけですが、学生たちにボランティアの契機を提示したことが大きな意味を持つたのですね。では実際に足を運んだ現地は、どんな状況でしたか？

島、仙台へ行きました。被災地はどうでも、臭いやホコリだけで、とくに砂塵がすごかつたことを覚えていました。悲惨な状況もそうですが、ほんの数十キロしか離れていない場所ではハイヒールを履いた若い女性が町を歩いている…、そのギャップにも驚かされました。

由水 私もがれきの中をバスで走りましたが、マスクをしていてもすごい臭いで絶句しました。この中で被災された方たちは暮らしているのだと思うと、本当に胸が痛かったです。

野村 家屋の上に乗つかった漁船など天地がひっくり返ったかのような光景はテレビで観てはいましたが、やはり驚きました。印象的だったのは4階建てのビルが津波で流され平屋のよつになっていたこと。古くからある有名な日本酒のお店だったそうですが、貴重なお酒もほとんどが流されてしまったそうです。人の命や家や財産はもちろん、文化的なものまで失われたのだと感じまし

井野瀬 やはり、想像を絶する現実
が あつたのですね。そんな大変な状
況のなかで、どのような活動をし
ましたか？

**ボランティア活動を
通して、人の糸や
あたたかさを知る。**

永所 僕の場合は震災直後で、ボラ
ンティア組織がまだ整っていない状
況だつたため、個人で活動しました。
がれきの撤去、被災者のニーズの聞き
とりなど、臨機応変に必要と思われ
ることを自分で考えて行動しました。
由水 現地ではまず、気仙沼の商店
街で支援物資を配るお手伝いをしま
した。次に避難所へ移動して、被災者

技である空手も教えました。みんな思っていたより元気で、ホツとすると同時に、気丈にふるまつてらしゃる姿には敬意を抱きました。
野村 私も子どもたちと一緒に遊ことが主な活動でしたが、みんな言いいっぱいでした。でも、なかに引っ越さなければならなくなつた言つて、寂しそうにしている子もたりして、幼い子どもたちの仲を判断する震災の二次的な影響も目の当たりにしました。そんななか、被災の中高校生が小さい子どもたちの倒を一生懸命見てあげている姿が印象的でした。本当の家族のように、災者同士がみんなで助け合つてい姿に、私自身が希望を与えられた感じでした。

水野

水井

脚注



甲南大学にあしながおじさんがいる!?

Round-table talk

甲南大学 父母の会 役員座談会



「さまざまなものにチャレンジして、成長したい」。
そう考え、前向きに大学生活を送る学生たちを支援してくれる
“あしながおじさん”が、甲南大学にはいます。
あしながおじさんの正体は、「甲南大学父母の会」。
保護者の方々の「わが子と思う“気持ち”」が集まり1954年に発足しました
このコーナーでは、保護者のみなさんを代表し、
役員として父母の会活動に取り組まれている方々にお話を伺いました。
“わが子”を思うのとまったく同じ気持ちで、
甲南大学全学生のことを考えてくださっている
役員のみなさんの優しく熱い想いをご紹介します。

吉田(会長) 子どもが甲南大の現役と卒業生。実は私も中高大と甲南で、現在も硬式庭球部の指導に携わっています。子どもたちは、母校を愛する私の影響を受けたのかもしれません。家族ぐるみで長年お世話になりました。家庭ぐるみで長年お世話になつてゐる大学に対し、恩返ししたいと
舟元(副会長) うちは息子二人がお世話になつています。私も中高大と
活動するようになつた

をしています。私も甲南を愛しているので、それが子どもたちに伝播したんでしょうか。下の息子は受験のとき、甲南大学しか受験しないと断言していたんですよ。(笑)。

が、クラブ活動の備品の修繕や、学生食堂の改善、図書館の蔵書の充実、教育活動のために資金を援助するなど、さまざまな面から大学サポーティングをしていることから、息子の大学生生活をとても身近に感じるようになりました。また、教職員の方々も学生に対して熱心に関わってくださつっていました。また、保護者や大学が知恵や力を出し合つて学生たちを支えている、強い絆のようなものを感じますね。息子はいい大学に入つたものだと思いましたね。

甲南大生や甲南大学に
対して感じること

学長先生や顧問の先生、事務職要職の方にもお越しいただいて、学生たちの練習風景を見学したり、みんなで和気あいあい、参加された保護者と大学との活発な意見交換もあり、楽しく充実した1日を過ごしました



に日本に帰国した生徒たちは、改めてその惨状を目の当たりにし、再びフランスに戻ったのの中には「自分たちにも何かできないか」という強い思いがあったのでしょうか。この募金活動というかたちで実現します。生徒会を中心に様々な機会を通じて募金活動をこれまでに約2,650ユーロもの募金を集めました。この募金は、東日本大震災に対する義援金、在仏日本大使館を通じて日本赤十字社に送られます。

サッカー・フランスリーグ2部に所属する地元トゥールFCと元日本代表松井大輔選手が所属するグルノーブルとの試合がトゥールのホームスタジアムで行われ、その試合会場で募金活動をさせていただきました。生徒34人が参加し、手作りの募金箱を手に大きな声で呼びかける生徒に、募金をしてくださったフランス人の方々は皆、「頑張ってね」と声をかけてくださいました。



- フランス甲南学園トゥレーヌのことをもっと詳しく知りたい方はこちら -

フランス甲南学園トゥレーヌ日本事務所 Tel.078-453-0115 <http://t-konan.jp/>

2010年度「父母の会 学生GP」 採択プロジェクト活動実績

◎採択プロジェクト

- ロボット同士の漫才による学部紹介
- 地域を対象としたラジオ番組制作実験
- 甲南大学と明日香村の農的地域連携Ⅱ
- 学生の学生による学生のための就職活動支援
- 世界にはばたけ甲南生! (幼稚園児対象の英語教室及び国際舞台で活躍する人々の講演会開催)

座談会で話題となった「父母の会 学生GP」。父母の会による学生支援活動の一つです。研究・教育・課外活動を含め、甲南大生が挑戦する価値があり、彼ら自身の自主性を高め、広く学生に資する企画に対して経費が補助されます。2010年度は、上記5つのプロジェクトが採択されました。

各プロジェクトの活動過程において、学生たちは、自分たちの夢を形にする喜びを感じるとともに、大きく成長を遂げています。



◀「コミュニティFM」の題材になった 神戸市東灘区の“だんじり”。

英語教室で楽しく英語に触れる幼稚園児たち。興味津々の瞳が印象的です。

甲南大学父母の会
甲南大学の教育の発展に寄与することを目的に設立。在学生の父母または保証人によって組織されています。施設や備品の援助、奨学金をはじめとした経済的な援助などで、教育環境の拡充を図るほか、上に記した「父母の会 学生GP」の主催など、教育に一步踏み込んだ修学支援も行っています。

通用しないということを教えたかったのです。他にも、各種申請用紙の書き方など、拙いところは敢えて書き直させたり、文脈構成やプレゼンの仕方のヒントを出したりします。今 のうちに経験値を積んで欲しいからです。学生は親だけに育てられるのではなく、社会と接しながら徐々に成長していくのです。父母の会は親と同じであると同時に、社会そのものもあるのだと思っています。

吉田 そうですね。私たちにとっては9000人の学生すべてが、自分の子どもみたいなものですから、社会に出て、恥ずかしいような人間に育つてほしいと願っています。かわいいからといって、無条件に支援するということではなく、多様化する学生の夢や個人の能力をいかに支え、伸ばしていくあげられるか。

和田 父母の会がより良い活動を続

いてほしいのです。甲南の学生たちは本当にかわいいですね。長男の友達が遊びに来ますよ。そんな素直なところも甲南大生の特徴じゃないでしょうか。

和田 甲南の学生たちは本当にかわいいですね。長男の友達が遊びに来ますよ。そんな素直なところも甲南大生の特徴じゃないでしょうか。

吉田 学生一人ひとりが「甲南で良かったな、楽しかったな」と思えることが大切だし、そうなつてくれるようになると願っています。私は硬式庭球部などで接する学生たちに、「いつも楽しくがんばれ」と声をかけます。「楽しくやる」と「樂をする」とは違つと。夢に向かつて行動することの充実感を持つてほしいということですね。親から子どもへのメッセージとも言えます。私たち父母の会は、親として、大人として、社会人として、人間教育の部分で関わることと思っています。

吉田 学生一人ひとりが「甲南で良かったな、楽しかったな」と思えることが大切だし、そうなつてくれるようになると願っています。私は硬式庭球部などで接する学生たちに、「いつも楽しくがんばれ」と声をかけます。「楽しくやる」と「樂をする」とは違つと。夢に向かつて行動することの充実感を持つてほしいということですね。親から子どもへのメッセージとも言えます。私たち父母の会は、親として、大人として、社会人として、人間教育の部分で関わることと思っています。

支援の新しい形が動き出す

吉田 学生たちのために、より良い

吉田 学生生活を謡歌できる環境づくりを支援することが父母の会の使命。でもそれは、小・中学校の保護者会、いわゆるPTAのように、保護者と先生と一緒に何かをするということでなく、それそれが違う立場から、責任を持つて学生を支援するという考

吉田 学生たちのために、より良い

吉田 学生生活を謡歌できる環境づくりを支援することが父母の会の使命。でもそれは、小・中学校の保護者会、いわゆるPTAのように、保護者と先生と一緒に何かをするということでなく、それそれが違う

走らせろ 命を！

余命半年と宣告された私に
奇跡をくれたのは
我が甲南大学の“仲間”です

平成22年度全関西学生選手権大会個人・
団体ともに優勝！（スピード競技4連勝）、
全日本学生選手権大会個人優勝！
平成23年度全関西学生選手権大会個人優
勝、団体2位！

華々しい活躍を続ける体育会自動車部。
大躍進の陰には、山根靖史監督の「最後ま
であきらめない」強い信念と、監督を信じて
ついていった現役部員の団結力・OBの心強
い支えがありました。しかし2010年5
月、山根監督の身体が、ガンに蝕まれている
ことが発覚。余命半年と宣告される。
持ち前のねばり強さとご家族をはじめ甲
南大学のOBや同期・現役部員のパワーで告
知期間を乗り越えられました。
現在1年9ヶ月経過：



すべてを自動車部に 捧げた大学時代

子どもの頃からの車好き、大学では入学式前に自動車部に入部予約？

子どもの頃からの車好き、大学では入学式前に自動車部に入部予約？

子どもの頃からの車好き、大学では入学式前に自動車部に入部予約？

社会人になつても 車とつながつていい 自動車部のコーチから 監督へ

また、カー用品店やカーディーラーでスponサーをお願いしたり、近隣の喫茶店や食堂さんには、イベントのパンフレットに広告を入れるという条件で、カンパのお願いをしたりもしました。当時、みなさん快く承諾してくださいり、地域ぐるみで応援していただきました。

内気だった私が、人前で堂々と話せるようになったのは、4年間がんばった自動車部の“営業活動”的成果に違いありません。

当時の自動車部は部員20人以上の大会所帯。授業以外は、部室か練習場で過ごすという毎日でした。

自動車部の試合は、主としてスピードを競うものに分けられます。1・2年の頃はひたすら練習＆練習の修行の兵隊です。もっぱら出場する先輩の“工具持ち”でした：日々、朝5時頃から自動車教習所や神戸港の空き地を借り、授業が始まる寸前まで練習していました。それまで文科系だった私には、朝練や春夏の合宿も超ハードで何度も脱出を図りたくなったものでした。3年になって運転技術競技「フィギュア」に出場したときは感動モノでしたね。

自動車競技は、修理や維持費など

ですごく経費がかかるのです。限られた予算の中、OBの方からもご支援ご協力をいただいているのです

が、クラブ総動員でバイトもしていました。

深夜のガソリンスタンドや車の

オーケション会場で働いたり、ト

ラックで運送の手伝いをしたりと

…。



末期ガンの宣告 短いスパンでいい 生きる目標を 設定しよう

山根 靖史 監督



昭和37年9月24日生まれ。京都生まれの大坂育ち。でもふるさとは神戸と言いくる。

1982年甲南大学法學部入学と同時に自動車部入部。1986年卒業後、トヨタやレース会社を経て独立。1991年自動車部のコーチに、2006年監督に就任。2010年5月にガンが発覚し、現在、自動車部の監督を兼任しながら、末期がん治療中(胃・食道・肝臓・リンパ節・脳腫瘍と現在も転移)

検査の結果、医師から「末期ガンステージIV“胃から食道・肝臓・リンパと転移していく、よくもって半年でしよう」と衝撃の宣告を受けたのです。

2010年3月、悲願の関西大会初優勝を果たし、自動車部の士気はどんどん上っていました。ところ

のようでした。

2010年5月11日。

私の頭の中は、真っ白になりました。

私の時代と比べると車の性能も格段に進化し、夢のレーシングチーム

のようでした。

検査の結果、医師から「末期ガンステージIV“胃から食道・肝臓・リンパと転移していく、よくもって半年でしよう」と衝撃の宣告を受けたのです。



波の乱れで見えない性質を測る。

**原子核を突いたり、
ギュッとしたりが実験？**

うことになります。

ギュッとしたりが実験？

「研究のどこ」がおもしろい?」とよく聞かれますが、「目の前でグツグツ沸騰しているお鍋があれば、ふたを開けて中を覗きたくなりませんか?」と答えます。私はただ、何が起こっているのか知りたいだけ

ご紹介したように先生の研究対象は「原子核物理」。しかし、実験で用いる放射線への知見が深いことから、放射能汚染に関するコメントを求められることも、たびたびあるそうです。実際、2011年5月には、東京電力福島第1原発の半径60~80キロメートル圏で土壤を採取するボランティアにも参加されました。採取した土は、甲南大学所有のゲルマニウム検出器と呼ばれるガンマ線を測る装置を用いて測定されたそうです。右の写真は、ボランティア活動の際に、先生が身につけていた「放射線量計測器」。もちろん、被ばく量を測るものです。

○播磨科学公園都市 大型放射光施設「SPring-8（スプリング-エイト）」のHP
<http://www.spring8.or.jp/ja/>

波の乱れで 見えない性質を測る。

何なんだろう？って
考えたことがありますか。

また、原子核は物質の「質量(重さ)」のほとんどを担っている以外、ほとんど実生活には姿を表しませんが、詳細に調べると、原子核ほどに多彩な個性があることがわかってきたのです。この多彩な個性を調べたいという思いが私の研究のもとになっています。

ています。電子が「軽い粒子」であるのに 対し、原子核は電子より数千～数十万倍 「重い粒子」で、原子の中心に鎮座しています。

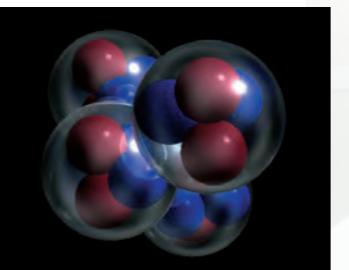
さらに詳しく見ると、原子核は陽子と いう粒子と中性子という粒子がいくつか 組み合わさってできていることがわかり ます。身のまわりにある物質は、ほとんど すべて、この原子核の中性子と陽子の組

見えない世界で、
何が起こっているのかを
知りたいだけなのです。

東京電力福島第1原子力発電所の事故によって、土地や食べものが汚染され、いまだに放射能の脅威は続いている。その恐怖は、私たちの“目に見えない”世界で起こっているからです。

身の回りに存在するすべてのものは、原子によって成り立っているといわれますが、果たして目に見えない原子の世界では何が起こっているのか。

その謎を、原子の中心である原子核から解明しようとする、理工学部物理学科の秋宗秀俊准教授にお話をうかがいました。



トリウム4(${}^4\text{He}$)原子核が4個集まってガス状に
トリ酸素16(${}^{16}\text{O}$)原子核になった状態を表した
左の図

なるほど!
甲南
アカデミア

前線を
ださい



理工学部 物理学科
秋宗 秀俊 準教授
理学博士、1988年京都大学理学部卒業、
1993年京都大学大学院理学研究科物理第二専攻修了。放射線を用いた測定の専門家
という観点から、最近は福島県の原発事故
による被ばくに関するコメントを、多くのマス
コミに寄せていている。

第一線で活躍する卒業生に、ご自身の生き方についておうかがいするこのコーナー。今回は、小原流の五世家元としていけばなの世界でご活躍される小原宏貴さんにインタビューします。

伝統文化に、新しい風を吹き込むこと。
それが私の使命だと思っています。



小原流とは？

小原流は、19世紀末に小原雲心が創流したいけばなの流派。雲心は、「六甲周辺の風景を水盤に表現したい」と考へ「盛花(もりばな)」という挿法を考案し、いけばなの普及に貢献した。現在、小原流は全国158支部・海外57支部を設け、国内外で普及活動に取り組む。華道三大流派(池坊、小原流、草月流)のひとつとして知られる。○小原流HP <http://www.ohararyu.or.jp/>

1世紀以上の歴史を誇る小原流の家元を6歳で継承。

小原流家元 小原 宏貴 氏

甲南中学・甲南高校を経て、2010年3月に甲南大学経営学部を卒業。創流1世紀以上の歴史を誇る小原流の五世家元。今後のいけばな界を担うニューリーダーとして注目を集める。趣味は、読書、映画、野球観戦など。

伝統を受け継ぎながら、新しい試みにも挑戦。

技術は比較的早く習得できたでしょうが、そのぶん型にはまってしまい、自分の個性が伸びなかつたかも知れません。花をいけることを純粋に楽しんでできたことで、いつの間にか花をいけるのが好きになり、今では好きなことを仕事とできる喜びを感じています。

大学卒業後、家元として本格的に活動を始めた私がまず取り組んだのは、いけばなの型を創案することです。このたび

小原流では10年ぶりとなる花型「花奏(はなかな)」を完成させ、発表することができました。「花奏」は、現代の生活様式に合わせた花型で、限られた空間でも花を飾ることができる、新しいいけばなのスタイルです。いけばなは伝統のある文化ですが、同時に生活に根付いた文化であります。時代の変化、生活空間の変化に合わせて、いけばなも、また変

わっていかなくてはなりません。今日、小原流が盛んになったのは、生活空間の問題に直面しています。そのなかで、若い世代である私が果たすべき役割は大きいと思います。いけばなという伝統文化に新しい風を吹き込み、自分と同じ若い世代の方に興味を持つていただきたいと思います。私の活動によって、少しでもいけばなに注目が集まり、裾野が広がることに貢献していかねばと思っています。

甲南で身についた、社会に貢献する精神。

現在、会社帰りのO・Lさんなど、若い女性が楽しくいけばなに親しめる教室を開講しています。実際にこうした教室をやってみると、この教室をきっかけに、本格的にいけばなを始めてみたいと思つ方が多くいらっしゃいます。心を無心にして花と向き合えることが、いけばなの面白さであり、世代も時代も超えて思つ方がある魅力がいけばなにはあるのだと思つています。また、小原流は

「和」を大切にします。いけばなの裾野を広げることは、いけばなに携わる花卉生産者、花屋、いけばな作家、そして見る人の「和」と「あげること」につながります。



小原流では10年ぶりとなる花型「花奏(はなかな)」を完成させ、発表することができました。「花奏」は、現代の生活様式に合わせた花型で、限られた空間でも花を飾ることができる、新しいいけばなのスタイルです。いけばなは伝統のある文化ですが、同時に生活に根付いた文化であります。時代の変化、生活空間の変化に合わせて、いけばなも、また変

わっていかなくてはなりません。今日、小原流が盛んになったのは、生活空間の問題に直面しています。そのなかで、若い世代である私が果たすべき役割は大きいと思います。いけばなという伝統文化に新しい風を吹き込み、自分と同じ若い世代の方に興味を持つていただきたいと思います。私の活動によって、少しでもいけばなに注目が集まり、裾野が広がることに貢献していかねばと思っています。

現在、会社帰りのO・Lさんなど、若い女性が楽しくいけばなに親しめる教室を開講しています。実際にこうした教室をやってみると、この教室をきっかけに、本格的にいけばなを始めてみたいと思つ方が多くいらっしゃいます。心を無心にして花と向き合えることが、いけばなの面白さであり、世代も時代も超えて思つ方がある魅力がいけばなにはあるのだと思つています。また、小原流は

「和」を大切にします。いけばなの裾野を広げることは、いけばなに携わる花卉生産者、花屋、いけばな作家、そして見る人の「和」と「あげること」につながります。



今回ご登場いただいた、小原流家元 小原宏貴氏が個展を開催されます。

FLOWER & SPACE いま—空間の花—そして

小原宏貴展

2012年3月30日(金)～4月4日(水)

東京・日本橋高島屋8階 午前10時～午後8時

※30日(金)は午後3時30分、4日(水)は午後6時閉場

思いを新たに、名言と記念樹

2011年9月10日、学校法人 甲南学園甲南小学校(甲南小学校、甲南幼稚園)が創立100周年を迎えられました。

甲南小・幼と学校法人 甲南学園(甲南大学、甲南高等学校・中学校)、甲南女子大・高・中は、法人は違えど

創立者のひとり平生鉄三郎の理念を共有する“兄弟姉妹”であり、“親戚”でもある良好な関係です

(3法人の関係については、甲南Today No.33 19~20頁で詳しくご紹介しています)。

当ページでは、甲南小・幼の創立100周年をお祝いし、小・幼と甲南大学、高中との絆を象徴するエピソードのひとつをご紹介します。

弟妹通う(甲南)幼小、生まれは(中高大の)兄姉 『甲南のルーツ』が昨秋100周年

それは昭和55年11月1日。当時、甲南大学長だった伊藤順吉先生が、甲南女子学園の創立60周年記念式典祝辞の開口第一声に「甲南のルーツは甲南幼稚園である」と述べた名言は、出席者に深い感銘を与えたという。

『甲南』の名は、甲南3学園(幼小・中高大・女子)の各初代理事長を務めた田邊貞吉氏<元・文部省普通学務課長、住友銀行支配人>の俳号を使ったという説が有力だが、「六甲山の南地帯と云われていた土地の呼び名から」という説もある。これらは現代の学生や世間は、ほとんど知っていない。※甲南小学校70周年記念誌から。

100年前の明治44年9月10日。当時、兵庫県武庫郡住吉村に私学の火が点ぜられた。「甲南幼稚園」。翌年、小学校もスタート、兵庫県内私立校は須磨浦小学校(創立109年)に次ぐ2校目。

その幼稚園、小学校の第1期生が卒業する大正7年春を前に、関係者が設立を急いだのが甲南中学校。しかし準備が整わず、中学の開校は翌8年。これが現・学校法人甲南学園(中高大)の創立年。

ちなみに、学園創立者は幼小、中高が共に平生鉄三郎先生とされているが、資金面などは田邊貞吉氏と、当時財界の有力者で地元に住む久原房之助氏(藤田組支配人、旧通信大臣、政友会総裁)らが中心。設立発起人らが理事に教育経験者の平生先生を招き入れ、当時から独特と云われ、現在も甲南教育の根幹になっている《德育、体育、知育》を柱に据えたので、平生先生が学園創立者の前面に立たされた。

名言の主・伊藤順吉元学長も、小学校第9回(大正15年)、旧高校第8回(昭和8年)卒のOB。

大学生を見守る小学生寄贈の松

もう一つ、幼小と中高大に大きな絆がある。それは大正4年、小学校は創立3年後に、御大典(天皇の即位)記念として全校児童73人が1円ずつ持ち寄って1本ずつ小学校内に、記念植樹した松の苗木が育っているのを知っていた、伊藤忠兵衛氏(両学園理事、呉羽紡社長)の呼びかけで、その一部10数本が同8年、中学校開校にあたって寄贈移植された。現在、大学の正門横から平生先生像の後方まで、ずらりと聳える松の大木がそれ。正門東横の松などは周囲が大人2人抱えほど。

この老木が、両学園を結ぶ90余年前の記念樹と、伝えられた記録は中高大にはない。※堤・元小学校長の小学校創立40周年記念誌への寄稿文参照。

甲南小創立100周年を記念して、式典のほかパネルディスカッションなどが開催されました!

2011年6月5日(日)には、小学校で平松 純子氏(国際スケート連盟理事、38回生)、水野 正人氏(財団法人オリンピック委員会副会長、39回生)、上島一泰氏(株)ウエシマコーヒーフーズ、代表取締役社長、元PTA会長)、安福 嘉孝氏((株)神戸酒心館、代表取締役副社長、69回生)、小原 宏貴氏(小原流五世家元、華道家、83回生)といったヴァラエティ豊かな面々をゲストに、パネルディスカッション「先輩たちが語る甲南らしさ」などが開催され、小学校時代の思い出やユニークな教育内容などについて、ゲストによる盛りだくさんなお話が聞けました。

また、同6月24日には、元NHKアナウンサーの池上 彰氏をゲストに、「人間力フォーラム～次の100年のために～」が開かれ、池上さんが甲南小の児童のみなさんといろいろなテーマについて語り合ったり、質問を投げかけたりされました。

いずれも、甲南小の卒業生・現役を通して、甲南小のすばらしさが強く心に刻まれるイベントとなりました。

さらに、9月10日の創立記念日には、ホテル・オークラ神戸で学園主催、同窓会サポートの記念式典、懇親会が催され、鏡開き、記念演奏、100年の歴史映像上映、パネル展示などが盛大に行われました。

他に、記念事業として、校舎本館の建て替え、教室の近代化改修および記念誌編纂なども行われました。



**生徒を「引っ張る」
のではなく「支える」と
気づいた瞬間、
チームは変わった。**

「選手たちとその場で抱き合って号泣しました」と、あの瞬間を振り返って南屋教諭は語る。2011年6月に開かれた県民体育大会。甲南高校ラグビー部は関学高との決勝戦、14対14の引き分けノーサイドによって、3年ぶりの優勝を飾った。しかしそこにたどり着くまでには強豪校、報徳学園との準決勝に大きな転機があった。「報徳は大きな壁でした。

とにかく勝ちたいという私自身の気負

いが、生徒たちにマイナスの影響を及ぼ

してたのでしよう。報徳戦を目前に、

チームの結束は弱まっているように思

えました。このままでは勝てない…」と

感じていたとき、先輩教員からの一言

「チームの結束が弱まっているのは監督

に責任がある」と。

この言葉に目の覚める思いがしたと

言う。「それまで、とにかく勝つための

チームづくりを考え、『もっとチーム内

でコミュニケーションをとるよう』にな

りました。しかし、それが結果的に

勝利した。

「ラグビーは本当に奥が深いスポ

ツ。監督をして10年以上経ちますが、い

まだわからないことだらけです。しか

し今では、わからないことも生徒たちと

共有し、一緒に成長していく

利した。

「ラグビーは本当に奥が深いスポ

ツ。監督をして10年以上経ちますが、い



オトナになんでも甲南ボーイ
「オール甲南の集い2011」をつくった男たち



「甲南ジャズフェスティバル」では、OBとJAZZ研究会・高中プラスアンサンブル部の現役学生生徒たちが会場を大いに盛り上げました！

木村 高校時代の恩師、樋口先生（現常任顧問）を訪ねて、大学に行つたんです。そのときご紹介いただいた広報部の方から、「オール甲南」を手伝ってもらえませんか？」とお話をいただきました。

小池 僕たちの発言から感じられる愛校心が印象的だったそうで（笑）。「母校のためならぜひ！」って、喜んでお引き受けしました。甲南・来場者の方々、出演者・スタッフたちをひとつにつけるイベントにしたいなという願いから、キーワードを「つながり」としました。

毎年恒例の「オール甲南の集い」（以下、「オール甲南」）。2011年は、3月に発生した東日本大震災を受け、震災復興支援チャリティーイベントとして5月22日に開催いたしました。イベントは、過去最高の3000名を超す来場者を記録。大成功に終わりました。その後の立役者となつたのが、木村さんと小池さんです。

木村 あと、この数年恒例だったスタンプラリーをチャリティー・プログラムとして実施することにしました。実は、「オール甲南」のお仕事を引き受けたとき、うれしい反面、ものすごいプレッシャーがあつたんですね。で勢いがついて、いろいろな協力を先輩方に相談したんです。そうしたら、「よっしゃ、手伝つたる先輩方にすぐ電話して、「後輩ががんばってるんで、力を貸してやってください！」って頼んでくれました。それで勢いがついて、いろいろな協力を先輩方にお願いする日々が始まりました。

小池 まずは「スタンプラリー」の景品を提供してください!」と(笑)。スタンプラリーを有料にして、売上金全額を義援金に充てようと考へたんですけど、商品を充実させないと誰も買ってくれませんからね。実は、うちの父も甲南出身なんで、父の友人にもお願いにまわりました。みなさん、超えた父のネットワークは、僕にとってもかけがえのない財産です。

木村 スタンプラリーのほか、ジャズ・フェスへの出演やFM COCOLOOX日本サービスドッグ協会（盲導犬支援）のブース出展など、本当に多くの卒業生の方々に助けていただきました。また、「オール

木村 あと、この数年恒例だったスタンプラリーをチャリティー・プログラムとして実施することにしました。実は、「オール甲南」のお仕事を引き受けたとき、うれしい反面、ものすごいプレッシャーがあつたんですね。で勢いがついて、いろいろな協力を先輩方に相談したんです。そうしたら、「よっしゃ、手伝つたる先輩方にすぐ電話して、「後輩ががんばってるんで、力を貸してやってください！」って頼んでくれました。それで勢いがついて、いろいろな協力を先輩方にお願いする日々が始まりました。

木村 まずは「スタンプラリー」の景品を提供してください!」と(笑)。スタンプラリーを有料にして、売上金全額を義援金に充てようと考へたんですけど、商品を充実させないと誰も買ってくれませんからね。実は、うちの父も甲南出身なんで、父の友人にもお願いにまわりました。みなさん、超えた父のネットワークは、僕にとってもかけがえのない財産です。

木村 スタンプラリーのほか、ジャズ・フェスへの出演やFM COCOLOOX日本サービスドッグ協会（盲導犬支援）のブース出展など、本当に多くの卒業生の方々に助けていただきました。また、「オール

KONAN BOY

オトナになんでも甲南ボーイ 「オール甲南の集い2011」をつくった男たち

甲南の男子学生を指すことばとして、昔から関西ではおなじみの「甲南ボーイ」ということば。“おぼっちゃま”“さわやか”“かっこいい”…等々、人によってさまざまな意味を込めて使われています。

このコーナーでご紹介するのは、広報部が考える「甲南ボーイ」のイメージにぴったりの卒業生。30歳の“オトナ”なのに、思わず「甲南ボーイ」と呼びたくなる木村和睦さんと小池亮介さんです。お二人は、甲南小学校～甲南高等学校までの同級生で大の仲良し、お父さん同士も同級生という非常に“濃い”つながり。さてさて、このお二人、どんな「甲南ボーイ」なのでしょう…?

「オール甲南」にかかわった きっかけと、 二人がめざしたもの

小池 高校時代の恩師、樋口先生（現常任顧問）を訪ねて、大学に行つたんです。そのときご紹介いただいた広

報部の方から、「オール甲南」を手伝ってもらえませんか？」とお話をいただきました。

木村 僕たちの発言から感じられる愛校心が印象的だったそうで（笑）。「母校のためならぜひ！」って、喜んでお引き受けしました。甲南・来場者の方々、出演者・スタッフたちをひとつにつけるイベントにしたいなという願いから、キーワードを「つながり」としました。

東日本大震災の 発生を受けて

小池 僕は、これまでよりもっと若い人が参加してくれる「オール甲南」にしようと思いました。

イベントを通じて被災地へ何かお返しえきないかと思いました。

木村 3月11日、東日本大震災の発生を受け、広報部から「オール甲南」をチャリティーイベントに見直しましたが、大きく変わったのは、プログラムをチャリティー用に見直しましたが、大きくなればという使命感が直しました。震災により一層良いイベントにしなければという使命感がつにするイベントにしたいなという願いから、キーワードを「つながり」としました。

学校1年生だったんですよ。校舎の建物で直しのために、非常にたくさんの方から寄付をしていただいたというお話を子供心に印象的でした。だから、イベントを通じて被災地へ何かお返しえきないかと思いました。

小池 僕は、これまでよりもっと若い人が参加してくれる「オール甲南」にしようと思いました。

イベントを通じて被災地へ何かお返しえきないかと思いました。

木村 2004年甲南高等学校卒業。デジタルカラー株式会社取締役。アイディアリミックスクラブ株式会社代表取締役社長。妹さんは甲南大学のご卒業生。お母さんは甲南女子大のこ卒業。

学校1年生だったんですよ。校舎の建物で直しのために、非常にたくさんの方から寄付をしていただいたというお話を子供心に印象的でした。だから、イベントを通じて被災地へ何かお返しえきないかと思いました。

小池 僕は、これまでよりもっと若い人が参加してくれる「オール甲南」にしようと思いました。

イベントを通じて被災地へ何かお返しえきないかと思いました。

木村 2000年甲南高等学校卒業。デジタルカラー株式会社取締役。アイディアリミックスクラブ株式会社代表取締役社長。妹さんは甲南大学のご卒業生。お母さんは甲南女子大のこ卒業。

学校1年生だったんですよ。校舎の建物で直しのために、非常にたくさんの方から寄付をしていただいたというお話を子供心に印象的でした。だから、イベントを通じて被災地へ何かお返しえきないかと思いました。

小池 僕は、これまでよりもっと若い人が参加してくれる「オール甲南」にしようと思いました。

イベントを通じて被災地へ何かお返しえきないかと思いました。

木村 広報部の方からは、チラシ・ポスター・当日配付のプログラム制作、OB会のケータリングをお願いされたり、いくつかのプログラムが、たほか、甲南つぽい気がしません？

学校1年生だったんですよ。校舎の建物で直しのために、非常にたくさんの方から寄付をしていただいたというお話を子供心に印象的でした。だから、イベントを通じて被災地へ何かお返しえきないかと思いました。

小池 僕は、これまでよりもっと若い人が参加してくれる「オール甲南」にしようと思いました。

イベントを通じて被災地へ何かお返しえきないかと思いました。

